



るらてる



2022年
5月
No.893

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 李明生 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教 「開かれた理性」

日本福音ルーテルなごや希望教会 牧師 末竹十大

「そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて」
ルカによる福音書24章45節



「復活後の主イエスは、弟子たちの「心の目」を開いたと記されています。「彼らの心の目」という言葉の原文は「彼らのヌース(理性)」です。わたしたち日本人に分かり易いように「心の目」と訳されています。このヌースという言葉はパウロ書簡にも出て来ます。コリントの信徒への手紙一2章16節の『だれが主の思いを知り、主を教えるというのか。』しかし、わたしたちはキリストの思いを抱えています。」という箇所です。「思い」と訳されている言葉は「ヌース」です。ヌース(理性)は「心の目」と訳されたり、「思い」と訳されたりしているのです。

第一コリント2章でパウロが語っているのは、神の事柄を理解するのは「霊の人」であるということとです。最後には、「わたしたちはキリストのヌースを持ってきます」と語られています。「抱いてきます」と訳されていますが、原文で「持つてきます」が原文です。「霊の人」とは「キリストのヌースを持つている人」だとパウロは語っているのです。

このヌースを開いたので、そして、宣教へと派遣しました。わたしたち現代に生きるキリスト者は、復活のキリストに出会っているのかと思う人もいます。復活のキリストを見たという人をうらやましいと思う人もいます。もしかしたら、自分の目で、見ていないならば、わたしは、本当は復活に与っていないのではないかと、思う人もいます。しかし、見たとしたら、宣教できるのにも、宣教できないのかし、そうではないのかし、復活のキリストに出会った弟子たちは、パウロが言うように神の事柄を理解するようにされたのです。それが聖書を理解するための理性が開かれたことだったとルカは伝えています。また、エマオ途上で2人の弟子たちに對して、キリストご自身が聖書を理解するようにと解き明かされた出来事も、ルカは伝えています。そうであれば、聖書に記されているキリストの出

来事、十字架と復活の出来事を理解する人は、理性を開かれた人であり、復活に与っている人だといふことになります。それが、復活のキリストに出会った人たちに起こった神の出来事だったので、パウロはキリスト者を迫害していましたが、ダマスコへ向かう途上で復活のキリストが現れてくださったことによつて、それまで否定していたキリストの十字架と復活を宣教する者に変えられました。彼は自らの罪を取り除いてくださった救い主としてキリストを宣べ伝えることになったのです。パウロがそのような変えられたのは、キリストによつて聖書を理解するための理性が開かれたからでしょう。そのとき、パウロは復活に与つたのです。同じように、現代に生きるわたしたちキリスト者もまた、十字架と復活を神の事柄として理解するとき、復活に与っているのです。復活のキリストに出

会っているのです。復活のキリストのヌースが、わたしたちのうちで働いているのです。神の事柄は、人間的な理解を越えています。人間的な理性では受け入れることができない事柄です。それにも関わらず神の事柄を理解するわたしがいるということ、は、わたしのうちにキリストのヌース、神の霊が働いているからです。キリストの十字架と復活が、このわたしのために起こった神の出来事だと理解するのは、キリストの理性である神の霊を与えられて理解することなのです。

主のご復活を祝っているわたしたちは、聖書を理解する者としての理性を開かれています。ご復活したキリストのヌースはわたしのうちに働いておられる。キリストがわたしのうちに生きておられる。開かれた理性をもって主の十字架と復活を宣べ伝えていきましよう。

もお休みしなくてはいいけなくて、とてもとてもいたたまれない気持ちがいっぱいのまま教会へ足を運んでいました。どんな顔して礼拝へ行こう？必要以上に笑って笑顔でいれば皆さんは心配されないかな？牧師だからなあ：「主われを愛す主は強ければ：」あつ私神様にそのままを愛されているんだ。いつも自分で語るときは「あなたは神様にそのままを愛されていますよ」と語れるのに自分自身が語られると戸惑うときがあるんですね。

あなたが教会に行かない時があつても、聖書が開けない時があつても、たとえ誰にも心開けない時があつても、神様は言われます。「あなたのそのま

まを愛しています。」

その時は入院が続き日曜日も治療があるため、しばらく教会の礼拝

「ここに書かせていただいた聖句は私が受洗へと導かれた名言(ことば)です。なぜ今思い出したのか？私は信仰を新たにしたいと決意したからです。」

「主われを愛す主は強ければ：」教会学校で子どもたちの賛美が聴こえてきた時、「うそっどうして私の今の気持ちをおわかってくださったの？」

「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻つて来る。」(ヨハネ14・18)

「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻つて来る。」(ヨハネ14・18)

「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻つて来る。」(ヨハネ14・18)

「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻つて来る。」(ヨハネ14・18)



ビートル・リウゲル(文) 聖パウロの信心(1597年) ウィーン美術館蔵

このパウロの言葉から考えてみれば、ルカによる福音書24章45節で言われている開かれた理性(ヌース)とは「キリストのヌース」ではないかと思えてきます。その理性(ヌース)が閉じられたままでは、神の事柄を理解することができないということ、イエスは弟子た

た、イエスは弟子た

た、イエスは弟子た

た、イエスは弟子た

た、イエスは弟子た

た、イエスは弟子た

た、イエスは弟子た

日本福音ルーテル教会主催
「平和と共働の祈り」(オンライン)のご案内
2022年5月3日(火)午前10時30分~12時
メッセージ・大柴讓治牧師
各教区代表による連禱

日本福音ルーテル教会関係者の方はどなたでもご参加頂けます。参加ご希望の方は下記までEメールでお申し込みください。(後日オンラインミーティングのURLを送信いたします。)

申込締切 5月2日(月)12時まで
申込先 soumu08@jelc.or.jp

※お名前・所属・メールアドレスをお知らせください。また件名に「平和と共働の祈り参加申込」と記載ください。

日本福音ルーテル教会事務局



⑳「お帰り」 伊藤早奈



葉です（イザヤ7・14、8・8、8・10）。しかしマタイはその語を聖書全体の核心として捉え、それがイエスにおいて成就したことを宣言するのです。そして福音書は復活の主による弟子派遣の言葉で終わります。「私は天と地

つもあなたがたと共にいる」（28・18b、20）。マタイ福音書はインマヌエルに始まりインマヌエルに終わるのです。この言葉は旧約聖書全体の基調音です。「イエス・キリスト」という表現自体「イエスは私の救

音書を読み直してみると、彼の伝える信仰のリアリズムが透けて見えてきます。たとえば東から博士たち、ヘロデ訪問の場面では人間の闇がリアルに描かれます。マタイは王と全住民の持つ闇を「不安」として描くので

しかしまさにその闇のどん底でマタイは記すのです。救い主の誕生を告げる星の光が確かに闇の中で輝いていることを。「彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立つて進み、ついに幼子がいる場所の上に止まった。博士たちはその星を見て喜びに溢れた」（2・9、10）。マタイが記す

「だから、あなたがたは蛇のように賢く、鳩のように無垢でありなさい」（10・16）。面白いですね。日本語の「清濁併せ呑む」を想起します。しぶとくしなやかに賢い、バランスある信仰をここで主は勧めているように思えます。私たちがそのような信仰のリアリズムに立ち続けたいのです。COVID-19パンデミックという現実においても、ロシアによるウクライナ侵攻という現実においても、大地震という現実においても。闇に希望の光は確かに輝いています。すべての人に

「ウクライナとロシアのルーテル教会監督が共に祈る」
3月18日、ベルリン大聖堂でエキュメニカル平和祈禱会が開かれ、そこにウクライナとロシアのルーテル教会の監督（ビショップ）が出席しました。それぞれ教会代表の監督が祈禱会の席で述べた言葉を紹介します。

ウクライナのドイツ・ルーテル福音教会の、パフロ・シュバルツ監督
「神は私たちから遠ざかることはありません。また無関心でもいられない方です。戦争の犠牲者たちと今苦しんでいる人々と、ここで共にいてくださるので、神は戦争という地獄にあつても共にいて涙を流し、死の谷を共に歩いてくださいます。」

「インマヌエル」 清濁併せ呑む信仰のリアリズム

「見よ、おとめが身もつて男の子を産む。／その名はインマヌエルと呼ばれる。」（マタイ1・23）
世界状況が緊迫し混沌としているためでしょう、マタイ福音書の「インマヌエル」が強く私に迫ってきました。それはイエスの誕生予告にイザヤの預言の引用として出てくる言

の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民を弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりまで、い

い主という信仰告白です。井上洋治神父は「アズバ」（マルコ14・36）という一語の中にすべてを捉えました。マタイに従えば私たちの信仰告白はただ「インマヌエル、アーメン！」の一言だけでよいのです。その視点からマタイ福

す（2・3）。彼らは等しく「ユダヤ人の王」により自らが脅かされることを心底恐れしました。その最たるものがヘロデによる嬰児虐殺です（2・16）。なんと人間の闇は深くおぞましいことか。暗澹たる思いにさせられます。

次もマタイだけが記す言葉です。「施しをするときは、右の手のしていることを左の手に知らせるべきではない」（6・3）。

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「教会讃美歌 増補」 解説



②創作賛美歌解説3
「田坂さんのこと」

讃美歌委員会
北川逸英

（日本ルーテル教会
池上ルーテル教会
杉並聖真ルーテル教会牧師

増補25番「きょうはうれし
いクリスマス」・増補28番
「目を覚ましていましよ
う」・増補30番「いのちの花」

この3曲の賛美歌は、NR
K（日本ルーテル教会）鶴沼

ルーテル教会信徒、田坂仁さんの作詞です。田坂さんは強くこの増補版の出版を待ち望んでいました。パイロット版である「教会讃美歌増補試用版宗教改革500年記念」の製作では、ボランティアとして校正作業をお手伝いいただきました。けれど残念なことに、分冊の完成出版を見ることなく2021年1月、天に召されました。今回は、これまで共に祈り、共に歩いた北川が田坂さんを紹介して、作品に込められた祈りに、共に思いを寄せたいと思います。

京都豊島区に生まれ、また野球に打ち込むスポーツマンで、青少年教育に深い志を持つ、中央大学、明治学院大学に学びます。その在学中からアメリカンカンスターの臨時職員となって、宣教師との交流から信仰が芽生えました。ラジオ東京から流れていたルーテルタワーで熱心に学び、NRK東京ルーテルセンター教会で受洗しました。そして成美学園現横浜英和中学高等学校で、英語科教師を長く勤めました。いつも教育に情熱を燃やして、定年後も神奈川県各校で英語指導を続け、さら

にアルゼンチンで4年間、またボリビアにも年間赴任して、日本語と日本文化の教育に力を尽くしました。帰国後は精力的に教会活動と教育活動に邁進し、NRKの内に留まることなく、ルーテル学院大学、神学校後援会でも、大切な働きを最後まで続けました。

NRKの青少年育成プログラムにも必ず足を運んで、子どもたちや青年たちと全く変わらない、元気な活動をされました。数年前に鶴沼教会で開かれたジュニア・ユースキャンプでも、フォークダ

ンスを皆と一緒に楽しく踊っていました。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。

思い返せば田坂さんはいつも楽しそうでした。そしていつも誰かに熱心に話しかけていました。また田坂さんはいくつも童話を作り、本を出していました。最近の著作は2019年に上梓された『星がかがやくように』です。この短い物語は『美花園』という街角の花屋に並ぶ色とりど

「戦争と涙と死。それしか見あたりません。泣きじゃくる子どもたち、逃げ惑う市民、破壊された家々と死体が辺り一面に広がっています。私たちだけでは到底立ち向かえない力に、対して言葉もありません。けれど一人ではありませぬ。お互いがあります。私

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.
（世界宣教主事
市ヶ谷教会スエスミ教会牧師）

私たちは共に祈り、平和を求め、真実を証しし、他者の目を開いていくことができるのです。」

「ウクライナとロシアのルーテル教会監督が共に祈る」

「神は私たちから遠ざかることはありません。また無関心でもいられない方です。戦争の犠牲者たちと今苦しんでいる人々と、ここで共にいてくださるので、神は戦争という地獄にあつても共にいて涙を流し、死の谷を共に歩いてくださいます。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

「今年、あなたがたは花たちを踊らせた。また新年の高尾山ハイクにも参加され、ケープブルカーを使わず、青年たちと共に、自然研究路を楽しもうに最後まで歩き続けました。」

げて彼らを歓迎し次のように述べました。

「犠牲者の声に耳を傾け、誰か加害者なのかを明らかにしていく公平な平和へと私たちは召されています。真の和解は、そうすることによってのみ実現できません。私たちは希望を神に託しています。そして私たちは平和を作り出し、ついには和解をもたらす者となれますようにと祈っています。言葉だけでなく行いが伴うクリスチャンにしてくださいと祈っています。」

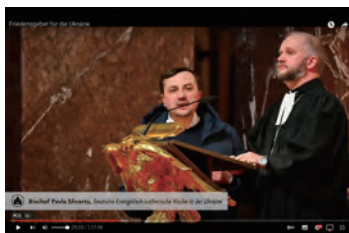
イレネウス・ルカスLWFヨーロッパ局長のコメント。「ロシアとウクライナ両ルuteran教会の監督が、公正

外キ協全国協議会報告



小泉基 (社会委員長・函館教会牧師)

「外キ協とは、外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」という長い名前を持つエキュメニカルネットワークです。もともとは1980年代以降に闘われた在日韓国・朝鮮人の指紋捺捺拒否運動に刺戟されて結成された、「外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会」という団体でした。カトリック



パブロ・シュバルツ監督

ディートリヒ・ブラウア監督

な平和を求めて共に祈る祈りは力強く、勇気ある証です。罪のない人々が殺され、数百万人が安住の地を求めて家を離れねばならないという困難なき、こうした祈りがますます必要なのです。」

※この平和祈禱会の詳細については以下のサイトを参考ください。



https://www.lutheranworld.org/news/ukraine-lutheran-bishops-ukraine-and-russia-join-prayer-peace

エキュメニカルな交わりから

②NCCジェンダー正義に関するポリシー策定のためのワーキンググループ

藤原佐和子 (鶴ヶ谷教会NCC書記)

日本キリスト教協議会(NCC)に2021年8月「ジェンダー正義に関するポリシー策定のためのワーキンググループ」以下、WGが新設されました。メンバーは日本福音ルーテル都南教会信徒の安田真由さんと筆者を含む10名です。このWGは、「この危機の時代にこそ後退することなく、ジェンダーやセクシュアリティにおける正義、そして真実のパー

第56回教職神学セミナー報告

宮本新 (ルーテル学院大学日本ルーテル神学校専任講師)

2月14〜15日、教職神学セミナー(日本ルーテル神学校主催、JELC協賛)が開催されました。主題は「これからの10年―教職論再考」。これまでの経験則ではこの先がやぶまれるとき、枝葉ではなく根幹的なことを再確認したいとき、これまでもこのような単純でいて根源的なテーマが選ばれて

トナー性と多様性を問う直し、それを与えられた恵みの豊かさを感謝し具現していく道へと踏み出さなければなりませんというNCC第41回総会期活動方針に基づき、ACTアライアンス(以下、ACT)をはじめとする世界の教会・団体とのエキュメニカルな連帯に根差して活動しています。ACTは2010年に、ルーテル世界連盟(LWF)や世界教会協議会(WCC)を中心に発足したもので、これまでは人道支援で知られ、日本ではNCCとCWS Japanがメンバーになっています。ACTは、2013年のLWFに続き、2017年にジェンダー正義に関するポリシー(基本方針)を採択したことも注

目され、現在、世界中のメンバーに「2026年までにポリシーを作り、実践しましょう」と呼びかけています。WGでは、既にジェンダー正義に取り組んでいる教会・団体に学びながら、この呼びかけに応えたいと考えています。

最近のミーティングでは、スウェーデン教会の2010年代以降の文書を分析しました。スウェーデン教会は世界で3番目に大きなルター派ルーテル教会で、毎年秋に行われる教会会議では16歳以上のすべての信徒に選挙権が与えられるなど、民主的な教会運営で知られています。スウェーデン教会では1960年から女性牧師が誕生しており、1993年には女性の按手を拒

否する権利が廃止され、「性別に基づく差別に反対します」という誓約書にサインしなければ、牧師となることはできません。現在、すべての牧師に占める女性の割合はわずかに男性を上回っていますが、指導的地位は男性に占められたままで、賃金格差も深刻です。それでも、2009年に世界で初めてレズビアン女性の主教(エヴァ・ブルンズ)が誕生している点、同性婚の祝福を賛成多数で可決している点、2011年の国連人権理事会におけるSOGI(性的指向と性別自認)に関する初めての決議にいち早く応答し、翌年には、ジェンダー平等とジェンダー正義はすべての男性、女性、少年、少女にかかわること

きたのだらうと思います。2日間のプログラムでは、3つのセッションを設けて、それぞれの発題者・発表者が、そのような再検討機会を差し出し、共に考える機会を持ちました。詳細については紙面の都合でかいたませんが、以下のプログラム要旨からその一端を紹介いたします。(以下、敬称略)

★セッション①シンポジウム「教職論の現在地と職制・職務・実存の問題として」
シンポジスト発題「職制と職務を考える」立山浩氏
「牧師は宗教家か労働者か」滝田浩之氏、「壊れいく宣教

と教職の現実に石原真美氏
★セッション②「現代社会における教職論」私の職務レポート
レポート「キリストを感じてもらおう」吉田達臣氏
「女性教職の働きと可能性」小勝奈保子氏、「牧師の働きについての模索」竹田大地氏、「気がついたらやっつけていこう」Pagora skills (Acquired when I noticed) 石切雄太氏
★セッション③シンポジウムII「これからの10年、教職論の課題と展望」
シンポジスト発題「選択と集中、その判断基準の柔軟性」李明生氏、「みことば

あつて、女性たちの問題ではない」との見方を明らかにしている点など、日本福音ルーテル教会から見ても大いに注目すべき教会です。
スウェーデン教会が、自分たちの立場を明確にしようとしてきたのは、そのことがオープンで率直な対話の場を作り出していくことにつながると信じているからです。このテーマに関心のある方は、5月21日にオンラインで開催される修学院フォーラム(日本キリスト青年アカデミー関西セミナーハウス活動センター)にぜひご参加ください。

次回は、アジアキリスト教協議会(CCA)の働きについて紹介します。

終わって見ると、オンライン故の残念な点はそれに上回る良い点で満たされました。特に、全国各地、ルーテル4教団の教職の方々が多数参加してくださったのはオンラインならではのことでした。とりわけ、積極的に参加してくださったJELC九州地域教師会の方々、そして受按5年以内の先生方現任研修の参加はありがたくもあり、また今後のセミナーの展望を考える糧をいただきました。感謝。



ルターナイト通算第13回(オンライン開催)

石原修(市ヶ谷教会)

2014年に東教区に「信仰を考える会」が作られ、教科書で誰でも知っているルター顔、そして著名なバッハを利用して、宗教改革500年までの3年間、礼拝には呼びづらい友人や同僚にルターとのつながりを持てるようにと「ルターナイト」が企画され、宗教改革500年を終えた後も継続し、12月3日、初回ポリウムゼロから数え13回目が開催されました。

10回と11回目は東京・恵比寿のJELLAホールを借りて開催しましたが、新型コロナウイルスにより、前回より完全オンラインで実施しています。司会は市原悠史牧師(横浜教会・横須賀教会)と谷口健太郎さん(市ヶ谷教会)。今回のトークは、昨年よりコロナ禍で渡米し、アメリカミネソタ州アボットノースウエストン病院のチャプレン(病院聖職者)として、コロナ病棟や精神科病棟で人々の魂に寄り添い、昨年9月に帰国した関野和寛牧師に、

「コロナ室に入り続けた1年間」と題してお願いし、市原牧師によるインタビューやオンラインでの質疑応答を行いました。

によるカンボジアの子ども達への支援活動のための募金を呼び掛け、職員の下川正人さんより説明がありました(写真)。最後は、恒例となった「君は愛されるために生まれた」を皆で歌い、終了しました。ライブと同じような交流の場を設けるため、前後に15分程度Zoomを開放しました。

「かみのみこはこよいし」と「まきびとひつじ」を、連続出演記録更新中のユースグループ「The Beggs」は、「ハクナワカイタサイエス」と「まぶねのなかでしずか」を、予め収録した動画にてお届けしました。市原牧師は、前回同様、リアルでギターの弾き語りを披露しました。今回は、JELLA

徳善義和先生からルターナイトのために頂いたバッハの言葉「祈りをもつてする音楽において常に神がおられる、恵みの現臨をもつて。」(徳善先生訳)を胸に、これからも続けていきます。

第28回春の全国ティーンズキャンプ(オンライン)報告

森田哲史(大江教会牧師)

3月27日、第28回春の全国ティーンズキャンプ(通称・春キャン)が、オンラインにて行われました。今年「自分の限界を超える」(主題聖句・ガラテヤの信徒への手紙6章2節)をテーマに、関野和寛牧師の講演を中心としたプログラムを行いました。初めに開会礼拝を行った後、青年スタッフが企画して

くださったZoom上で出来るアイスブレイクで参加者間の交流を深めました。講演では関野牧師が、アメリカでのチャプレンの働きから、傷つくことを恐れず、外に飛び出し、人と出会うと喜びがあると分かった。参加者は2名と少数でしたが、来年こそは直接会いたいね、と期待を膨らませています。

「以下感想」
「春キャンに参加することが出来てとても嬉しかったです。貴重な体験になりました。ありがとうございました。いろいろとごさいます。限界を超えるというテーマは初め私にとつて考える機会がなかったため難しいものでしたが、牧師先生の話をもつて考えやすくなりました。身近なものに変わっていききました。周りの人に合わせるという事も大切な事ですが、周りの人に流されずに強い意志を持つてこれからの生活を送っていききたいです。来年も春キャンに参加したいと思いま

す!」(中学2年生)
「私は2回目の参加でした。関野先生のお話にとつても心を動かされました。アイスブレイクもたのしかったです!ありがとうございました。」「(高校1年生)。
「なかなか対面で集まれない状況のなか、オンラインでこうして中高生の子たちがつながる機会があること、参加してくれる子がいることがとても素敵だなあと感じ、心が温まりました。ありがとうございました」(青年スタッフ)



ルター学院大学・日本ルター神学校の新年度が始まりました

2022年度のルター学院大学は、総合人間学部66名(編入学を含む)、大学院15名の新生を迎えました。また日本ルター神学校には牧師養成コースに中山隼輔さん(JELC室園教会)の1名、また神学一般コースに2名の新生を迎えました。4月4日、神学校入学始業礼拝が司式・河田優チャプレン、説教・立山忠浩校長によって行われ、新年度への歩みが始まりました。なお新型コロナウイルス感染症対策として、2022年度前期の講義は、昨年度に引き続き当面の間オンラインと対面を組み合わせたいブリッド方式によって行われます。後期の授業形態については、感染状況によってあらためて検討されます。(広報室)



第35回教会音楽祭

教会音楽祭は、キリスト教の教派を超えて神さまへの賛美とともに捧げようと、1968年から続けられています。日本最大のエキシブニカル(教会一致)活動のひとつです。第35回教会音楽祭は2022年10月22日(土)、オンラインで開催されます。

また、第35回教会音楽祭では、以下の二つの項目で公募が行われます。
①オンライン音楽祭(動画)の中で皆で歌う「応答の歌」のメロデー
②コロナ禍での、新たな賛美の取り組み
応募される方は、左記教会音楽祭インターネットサイトの公募要項をお読みください。
<http://cmf.holy.jp>

第35回 教会音楽祭
10月22日(土)、オンライン動画配信で開催します

公募のお知らせ ★いっしょに音楽祭を作っていきませんか★

【公募1】 みんなで歌う、短いメロディーをつけてください
下の応募の歌詞6つから、1つを選んでメロディーをつけ、五線譜でお送りください。20秒以内、8小節以内が目安です。
●ハレルヤ ●アーメン ●主よお聞きください
●主に感謝 ●主は今ここにおられる
●聖霊よ来てください

【公募2】 コロナ禍での新たな賛美の取り組みは?
集まっても歌うことが制限される中、賛美するためにはどのような工夫をされましたか? 写真や文章を、メールまたはSNSメッセージでお送りください。

詳しい募集要項は下記をごらんください
教会音楽祭公式ホームページ: <http://cmf.holy.jp>
教会音楽祭facebookページ (@35cmf2022)
お問い合わせ: mail@cmf.holy.jp